Ⅱ　事業の概要

1　主な教育・研究の概要

【久留米信愛短期大学】

1　短期大学の概要

（1）設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科

（2）学科の入学定員、学生数の状況（令和2年5月1日）

学科名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	100	
	収容定員	200	200	200	
	在籍者数	139	130	98	
	充足率（%）	69.5	65.0	49.0	
フード デザイン学科	入学定員	40	35	35	令和元年度 入学生から 定員35名
	収容定員	80	75	70	
	在籍者数	37	45	41	
	充足率（%）	46.3	60.0	58.0	
全　学	入学定員	140	135	135	
	収容定員	280	270	270	
	在籍者数	176	175	139	
	充足率（%）	62.9	64.8	51.4	

（3）卒業者、学位授与の状況について（令和3年3月31日）

	幼児教育学科	フードデザイン学科	合　計
平31年度入学生	64	26	90
在籍者数	53 （退学8） （除籍3）	25 （退学1）	78 （退学9） （除籍3）
卒業資格なし	0	0	0
卒業者（短期大学士）	53	25	78

2　はじめに

令和2年度はコロナ禍によりこれまでに経験したことのない1年になりました。まず前年度の3月17日に挙行予定の卒業証書授与式が新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました。令和2年度の入学式も中止となり4月6・7日とオリエンテーションを実施しましたが、4月7日に緊急事態宣言が発令され、4月8日から休講となりました。休講の間はカリキュラムの変更等の処置を行い、リモート授業や課題提出などの遠隔授業を実施しました。5月14日に緊急事態宣言が解除され、5月20日に前期が開講され、対面授業が始まりました。

対面授業を始めるに当たり、通学時の密を避けるため授業開始時間を30分遅らせました。教室を固定し机の間隔を取り座席も固定しました。教職員で当番表を作成し階段や廊下等

の消毒に当たりました。学生に三密を避ける等のアナウンスに努めました。その結果、令和 2 年度に学生及び教職員が新型コロナウイルス感染症に感染することはありませんでした。

3　令和２年度の重点的取り組み

（1）短期大学再生プラン

①　現状と課題

令和 2 年度入学者数は幼児教育学科 40 名・フードデザイン学科 16 名、合計 56 名と短期大学設置以来最も充足率の低い数字となりました。そこで令和 3 年度の入学者目標数を幼児教育学科 60 名・フードデザイン学科 20 名、合計 80 名と定め、目標に達しない場合は令和 4 年度の学生募集を停止することにしました。

教職員全員で力を合わせて学生募集に取り組むことを誓いましたが、コロナ禍のため例年実施している高校訪問やオープンキャンパス等の取組みが大きく制限されました。

令和 3 年度の入学生は幼児教育学科 38 名・フードデザイン学科 19 名、合計 57 名と前年度をわずかに上回るものの、幼児教育学科 60 名・フードデザイン学科 20 名、合計 80 名の目標を大きく下回り、令和 4 年度の学生募集を停止することになりました。

②　開かれた学校づくり

主に 18 歳の女子を教育の対象とするこれまでの短期大学から、男女の区別や年齢の差、環境の違いや障がいの有無を超えた、多様な学習目的を持つ多様な人々に応じた、すべての人の夢を叶える短期大学の創造を目指しました。その結果、多様な社会人が入学し、63 歳男性も入学されました。

③　学生募集の強化

ア　共学化への対応

令和 3 年度は幼児教育学科 3 名・フードデザイン学科 1 名の男子学生が入学します。幼児教育学科では 63 歳の学生、フードデザイン学科では調理師免許所持の学生など多様な男子学生が入学することになりました。

イ　社会人入学生の開拓

幼児教育学科 11 名・フードデザイン学科 3 名、合計 14 名の社会人入学生を迎えることができ、在学生と合わせると幼児教育学科 14 名・フードデザイン学科 8 名、合計 22 名の社会人が在籍し学んでいます。

ウ　ＳＮＳを使用した広報

対面での広報活動が制限されるなか、ツイッター・フェイスブックを広報活動に使用し、動画を積極的に導入しました。

エ　マスメディアによる報道広報

コロナ禍により地域のイベント等が制限され、学生の参加が制限され、新聞等での報道が縮小されました。

（2）新規中期プラン作成

2018（平成 30）年度から 2022（令和 4）年度までの 5 年間の短期大学の中・長期計画（「信愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画」）を策定しています。

（3）大学改革等による外部資金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業　タイプ 3 地域社会への貢献」にエントリーしましたが、1 点差で次点になり採用されませんでした。

4　幼児教育学科

（1）教育活動の充実

①　教職課程新カリキュラムへの完全移行に伴う教職課程および保育士養成課程のカリキュラム等の変更について、文部科学省および厚生労働省への変更届出等を行い、正式に受理されました。

②　保育・教職実践演習で作成する履修カルテを基に、学生ポートフォリオを用いた学生への教育支援プログラム、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招いて行う実践的な学習プログラムを実施しました。また、実習指導プログラムの見直し・改善を行うとともに、新型コロナウイルス感染症への対応について協議し、各実習での実習時期の変更などの個別対応、施設実習の学内演習への切り替え等の対応を行い、すべての予定していた実習を無事に終了しました。

（2）学生支援の充実

新型コロナウイルス感染症予防のため計画していた保育職面接特訓講座、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会、福岡市保育協会、久留米市保育協会、大牟田市保育園連盟と養成校との懇談会等は中止となりました。ただし、久留米児童相談所管内の児童福祉施設で実習を予定していた養成校間での情報交換をオンラインで行うほか、実習訪問指導などの機会を通じてコロナ対策等の情報交換を行い、実習や就職活動等についての学生支援を実施しました。結果として保育職等の専門職の求人は 1626 件を確保でき、就職率も 3 月末で 98%を達成しました。

（3）研究活動の活性化

研究活動の活性化として担当科目についての教育研究を学科の目標として挙げて取り組み、オンラインでの学会への参加・学会発表、本学研究紀要への投稿、テキスト執筆等を行いました。信愛保育研究会の活動はコロナ対応に伴い実施しませんでした。

（4）定員充足率の改善

入学志願者を増やすために信愛高校との接続プログラム、高大連携校（明光学園、福岡海星女子学院高校、南筑高校、誠修高校）とのプログラムを予定していましたが、コロナ感染予防のため誠修高校とのプログラムは中止、他は一部プログラムを変更して実施しました。職業理解・進学ガイダンス等の高校で行われる出前講座は積極的な参加を予定していましたが、ほとんどが新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。入試広報部と連携して HP を活用した学科案内･リモートや SNS を使ったオープンキャンパス等を行いましたが、結果として志願者増には結び付けることができませんでした。

（5）地域参画

①　おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画しました。具体的には昨年度に引き続き、「信愛つどいの広場」（週 3 回）、「子育て支援講座」（全 12 回）を予定していましたが、緊急事態宣言等の新型コロナウイルス感染症予防対策のため、「信愛つどいの広場」は 4 月～5 月の 2 か月を休館、「子育て支援講座」は予定していた内容を変更して 9 月から 12 月に 3 回のみ実施しました。「子育て相談」等についてはつどいの広場の開館時に行うほか、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を行いました。

②　「チャイルドプロジェクト」では「表現研究会」、「ピアノ・トーンチャイム研究会」、「保育者のための聞き方・話し方研究会」、「からだあそび研究会」、「科学遊び研究会」、「造形の楽しみ研究会」、「声楽研究会」の 7 つの研究会が、それぞれの活動を実施しました。そ

の報告について報告会をオンラインで実施したほか、報告書を3月に発刊しました。

③　8月に幼稚園教諭を対象とした教員免許更新講習を予定していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止としました。

5　フードデザイン学科

（1）「学科再生プロジェクト2018」

「フードミニオープンキャンパス」（6月13日）をフードプロジェクトの一環として、学生との共同企画で実施しました。「フードプロジェクトⅢ」（2年前期）のなかで、「学科紹介」、「フードプロジェクト活動紹介」、「イチゴソースづくり」について、スライド（power point）等資料作成や準備、プレゼンテーションや実習指導の練習を行いました。当日は、進行はじめ学生主導で参加者との面談応対まで担当しました。参加者5名のうち、新入生2名を迎えることができました。

（2）公開講座

令和2年度は、3講座開講しました。

①　「みんなの食育講座Ⅰ－卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子（本学非常勤講師、食空間コーディネート協会認定講師）

・第1回「紅茶の基本～テイスティングを楽しむ～」令和2年9月19日（土）

・第2回「フルーツティーを楽しもう」令和2年10月10日（土）

受講者数はのべ25名でした。

②　「みんなの食育講座Ⅱ－健康寿命を延ばす食生活」

講師：石井妙子（教授、元済生会福岡総合病院栄養部科長）

・「やわらかい・飲み込みやすい食事～パック・クッキングの実習～」令和2年7月4日（土）

受講者数はのべ2名でした。

③　「みんなの食育講座Ⅲ－手作りを楽しむ」

講師：山下浩子（教授）、眞部真紀子（准教授）、山村涼子（教授）〔開講順〕

・第1回「敬老の日を祝う～ 赤飯 ～」令和2年9月12日（土）

・第2回「エコクッキング」令和2年10月31日（土）

・第3回「男子、厨房に入る」令和2年11月28日（土）

受講者数はのべ31名でした。本講座では、2年次学生がフードプロジェクトの一環で、第2回は企画から実施まで担当者として、第3回はボランティアスタッフとして参加しました。

（3）地域企業との共同開発

今年度新たに2企業から依頼を受け、「久留米松きのこ」（株式会社GK・ファーム）、「ヒシ粉」（株式会社彩光コーポレーション）を使った料理・菓子レシピ開発に取組みました。また、「JAくるめ」、「生活協同連合会グリーンコープ連合」との連携は継続して行いました。

なお、『くるメディア』（西日本新聞）との連携活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一時中止の状況になっています。

（4）地域参画

例年、「フードプロジェクトⅠ～Ⅳ」（1～2年全学期開講）を中心に、地域参画事業に取組んでいます。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各事業が中止

になり活動の機会が減りました。そのなかで新たな方法（コロナ対応）で取組んだ事業もありました。

① 活動内容

・学生考案料理の企業広報誌掲載（JA くるめ／11 年、グリーンコープ／5 年）
・久留米市就学支援事業における調理ボランティア（2 年）
・「信愛クリスマスショップ」出店（株式会社ハイマート久留米／4 年）
・「聴覚障がい者対象食育講座」調理ボランティア（食と健康の和協議体との共同食育活動／3 年）
・久留米菓子協同組合店舗ポップ作成（新規）
・「青少年のためのサイエンスモール in くるめ 2020」オンライン講座動画撮影（高等教育コンソーシアム久留米／新規）
・「食品ロスを減らそう」（仮称）クッキング動画撮影（久留米市環境部／新規）

② 中止になった事業

・「くるめ菓子祭り」（久留米菓子協同組合）
・「くるめフォーラム 2020」
・「市民大感謝祭市場まつり 2020」
・「くるめ食育フェスタ 2020」
・久留米市就学支援事業における食育ボランティア
・「安武校区子どもエコクッキング」ボランティア（久留米市環境部）
・「久留米リハビリテーション病院」とのコラボ企画

（5）「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、施設開放に至りませんでした。

6 おわりに

令和 4 年度の学生募集を停止することが決定し、令和 5 年 3 月で短期大学の歴史の幕を下ろします。令和 3 年 4 月に最後の信愛生が入学してきました。最後の 2 年間を誇りある 2 年間にすることをここに誓い、一日いちにちの教育を大切にしたいと思います。

【久留米信愛中学校・高等学校】

1　重点目標の達成について

重点目標：創立60周年を迎え、信愛教育の原点に立ち返り、カトリック精神の基盤を固め直し、生徒一人ひとりと向き合う時間を大切にする。その上で個々の生徒に対して現代的に求められる能力を開発し他者に生かす自己の形成を促し、多様性の受容と協調性の養成による社会貢献の姿勢を養う。

昨年はコロナ禍で緊急事態宣言が発せられ、3月2日から5月26日まで臨時休校となりました。休校とはいえ生徒の「教育を受ける機会」「学習する機会」を確保するため、オンラインでのホームルーム、さらに授業へと苦手な教員も巻き込みながら進めていきました。

学校が再開されてからも感染予防対策を行いながら学習の遅れを早く取り戻そうと土曜日の授業や夏期休業の短縮など授業時数確保に努め試行錯誤を続けました。

また、ICT教育の活用として活動記録であるポートフォリオの内容を充実させ、表現力や発信力を磨くことを意識させました。さらにスタディサプリをはじめとする有用なコンテンツを活発に利用させました。そして大学入試改革に対応できる授業を目指し、日常でのICT機器を活用した対話的実践を増やしました。

2　教育活動

（1）生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講話・講演会の実施や個人面談等のきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。過去7年間の大学等合格状況の推移は次のとおりです。

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
卒業者数	89	90	79	77	84	77	78
国公立大学	※1　25	※2　25	※4　23	※5　18	※6　14	※8　21	※9　18
私立大学	117	138	127	131	101	112	103
海外の大学	3	※3　1	0	0	※7　1	0	0
短期大学	19	6	13	14	14	12	12
うち信愛短大	11	4	8	2	11	6	8
専門学校	9	9	6	9	15	6	9
就　　職	0	1	0	0	0	0	0

※1　防衛医科大学校合格1名、防衛大学校合格1名、航空保安大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格4名を含む。

※2　防衛大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格1名を含む。

※3　既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※4　防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格7名を含む。

※5　防衛医科大学校合格1名、防衛大学校一次合格8名を含む。

※6　防衛大学校一次合格6名を含む。

※7　ウエスタンワイオミングコミュニティカレッジ（アメリカ）合格。

※8　防衛大学校一次合格7名を含む。

※9　防衛医科大学校一次合格者2名、防衛大学校一次合格8名を含む

合格した主な大学は次の通りです。

〔国公立大学〕　九州大学・佐賀大学・宮崎大学・鹿児島大学・山口大学・鹿屋体育大学

〔私立大学〕　上智大学・早稲田大学・明治大学・中央大学・国立音楽大学・国際医療福祉大学・同志社大学・立命館大学・関西学院大学・大阪歯科大学・近畿大学・西南学院大学・福岡大学・久留米大学　他

（２）2020 年度は女子のみの学年の最後の卒業年となりましたが、大学入試改革と新型コロナウイルス感染症への対応が同時進行の 1 年でした。進学実績から見てみると、大学進学者のうち理系学部・学科への進学は 52.9%でした。昨年度比 11.4%増と高い数値となり、理数系に強い女子の育成について成果を上げました。コロナ禍の中、医歯薬看護など医療系への進学の意志が固まっていた生徒が多く、医学部医学科への現役合格（佐賀大 2 名、久留米大 2 名、福岡大 1 名、国際医療福祉大 1 名、のべ 6 名）も果たすことができました。他にも、積極的な進路探究の結果、理学部や工学部への進学を果たした生徒もみられました。また、大学入学後の留学や海外研修参加のイメージをはっきりと持って進学する生徒が理系文系を問わず多く見られました。日常の取り組みとして中心に据えているのは、自立を念頭に置いた「寄り添う指導」です。きめ細やかな個別指導及び全体指導を行い、3 年間または 6 年間かけて進路意識高揚と学力向上を図っています。

また、全世界がコロナ禍で苦しんでいる状況にある時だからこそ、全学年での SDGs の取り組みを始めました。これから社会で求められる「主体性を持って前に踏み出す力」、「とことん考え抜く力」、「チームで協力して働く力」等の育成を、今後一層深めていきたいと考えております。

（３）新型コロナウイルス感染拡大のため海外渡航プログラム、国際交流プログラム、留学等ほとんどすべてのプログラムを中止せざるを得なくなりました。

プログラム	概　　要
カナダ修学旅行	中止
韓国研修旅行	中止
ニュージーランド研修	中止
福者女子校との交流会	中止
イングリッシュ・キャンプ	中学 1 年(95 名参加)　11 月実施　2 日間　本校　英語漬け合宿 外国人講師 6 名
インターナショナル・キャンプ	中学 2 年(84 名参加)　10 月実施　2 日間　本校　英語漬け合宿 外国人講師 6 名
海外留学(1 年間)出発	なし
海外留学生の受け入れ	留学生来日中止
海外短期留学生の受け入れ	なし
聖マリア病院留学生（医療従事者）との交流（中学）	なし

３　広報活動

中学校では、共学 4 年目の生徒受け入れとなる 2021 年度（令和 3 年度）入試で、入学者 86 名中に男子 28 名で 32.6%（昨年度 29.2%）を占め、約 3 分の 1 が男子入学者となりました。志願者数 247 名、前年度比 7.1%減となり、86 名入学で定員を 4 名下回りました。歩留まり率（入

学者数/合格者数）は前年度 45.5%に対し、今年度は 39.8％で 5.7 ポイント低下しました。定員割れの主な原因として、コロナ不況による私立離れと感染リスクを避けるために近くの公立中学校を選択したことが考えられます。中学校入試においては、信愛オープン学力診断テストの実施後に行っている個別相談会への参加者の入学率が高い傾向が続いています。また、学習塾との円滑な関係の構築、特に小学校への積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を抜本的に見直し、前年度同様小学校訪問を強化いたしました。

高校では、共学 3 年目の生徒受け入れとなる 2021 年度（令和 3 年度）入試で、高校 1 年 160 名中に男子 46 名で 28.8％となり、高校からの入学者 87 名中 22 名で 25.3％、ホームルームでは約 4 分の 1 が男子入学者となりました。学際コースは、4 つのフィールド（教育・保育、食物・健康、医療・看護、総合）に加え、2019 年度より新しく情報コミュニケーションフィールドを起こし、学ぶ内容が明確になるように名称を変更しました。2021 年度（令和 3 年度）入試では志願者数 417 名、前年度比 23.0％増となりました。前年度歩留まり率（入学者数/合格者数）34.9 %に対し、今年度は 29.8%となり前年度より 5.1 ポイント下がりましたが、一貫生の入学者数が増えたことで入学者数は定員 160 名を確保しました。歩留まり率の低下の原因として、福岡県の公立高校入試倍率が昨年度の 1.19 倍から今年度は 1.15 倍に下がったことが考えられます。また、推薦・専願入試での入学者は 46 名となりました。（前々年度 53 名、前年度 51 名）。なお、本校中学 3 年生共学１期生よりやや低くなりました。85 名の内の他校受験は 14 名で、その中で本校進学は 2 名でしたので 73 名 85.9％の生徒が信愛高校に進学したことになります（昨年度は 89.8％）。共学一期生の初学年でしたが、中学生とその保護者にとって高校や一貫生の魅力とは何か、丁寧な説明と指導により一定の理解を得られた結果と思われます。

高校の魅力のブラッシュアップも含めての高校の魅力づくりと進学実績の一層の向上が求められます。また、一人一台 iPad 配付などＩＣＴ教育の推進など本校中学生への進学の勧め方の工夫や、2021 年度中学校全面実施、2022 年度高校年次進行で予定されている新学習要領のスタートに向けて教育内容や広報計画について改善の必要もあります。

４　その他

（１）中学 3 年を除く 5 学年で、各学年の発達段階に応じて、それぞれの節目に合わせた「学年みことばの祭儀」を行いました。例年であれば、美しい祈りの歌声が響くところですが、新型コロナウィルス感染拡大防止対策のために、歌に代わって手話を用いたり、心の中で歌詞を味わいながら伴奏を聴いたり、実施可能な形態を模索しながら行うことになりました。中学 3 年は、中学校課程修了時に、感謝のミサを含めた錬成会を毎年行っています。2019 年度は突然の臨時休校でやむなく中止となりましたが、2020 年度は、神父様を講師にお迎えして無事節目の行事を行うことができました。生徒のための宗教行事を教職員も共に準備しながら、「信愛教育」の精神の継承を図っています。

（２）同窓会との連携で毎年行っていた「信愛成人式」は、新型コロナウィルス感染症の拡大のため中止せざるを得ませんでしたが、代わりに同窓会から記念品が一人ひとりに贈られました。また、同窓生の子女の入学をサポートするための「野のゆり入学お祝い金」制度も継続され、卒業生と教職員、生徒との絆を確認しあう機会となっています。

（４）後援会との連携で毎年地区ごとに行われていた懇親会・地区保護者会は、2020 年度は実施できませんでした。そのような状況の中でも秋花祭では一部の地区がバザー出店にご協力くださり、その売上の一部を生徒の教育活動の資金としてご寄付いただきました。

（５）発足 8 年目となる「信愛父親の会(Shin-ai Dads’ Club)」には、秋花祭警備の他、12 月のイルミネーションの設置に際してご協力をいただいています。

（６）2020 年度は、高校 3 年を除く 5 学年が共学化しました。中 1 は定員を超える 96 名の新入生を迎え、男子生徒(約 3 割)と女子生徒が分け隔てなく協力しながら日々の学級活動に臨んでいました。高 1 は昨年度に続き定員通りの 160 名の生徒を迎え、高校共学化 2 年目のスタートを切りました。高校から入学した生徒のうち、男子生徒の割合は 2 割ほどでしたが、男女ともその環境の中で違和感なくそれぞれの個性を光らせています。放課後の部活動においても、5 学年分の男子の活躍が加わり、運動部文化部ともに新たな活気が生まれています。ボランティア活動の部活「イミタチオ･マリエ部」を中心に毎年行っている西鉄久留米駅での街頭募金活動の際にも、男女の元気な声が響きました。

5　まとめ

臨時休校に始まり、入学式も実施できずに始まった 2020 年度でしたが、体育祭をはじめとする大きな行事が中止となる中、この状況の中で何かできることはないかと職員も生徒も共に考え、今後の学習指導要領改訂で求められている“主体的な取組み”の実践準備に自然と導かれたといえます。全学年を挙げて取組んだ、「信愛 SDGs で世界を変える」はその１つです。各学年が、発達段階に応じて、持続可能な社会を目指す SDGs の 17 の目標に沿って、調べ学習から実践につなげていきました。

2021 年度は、中学共学化 1 期生が高校に進学し、高校共学化 1 期生も高校 3 年生となりますので、すべての学年が共学化します。従来通り、では立ち行かなくなっているこの社会状況は、まさに「信愛ひらくプロジェクト」の観点「ひらく」が求められるときでもあります。社会がいかに変わろうとも変えることのない「信愛教育」の根幹にあるカトリック教育の価値観を大切にしつつ、新たな視野をひらいていく教育活動に今後も力を注いでまいります。

【久留米信愛幼稚園】

1　幼稚園の概要

2020年度園児数推移表

		新入園児数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	在園児数		134	201	204	216	223	226	232	235	238	241	246	252
	退園児数			-1			-1				-2		-1	-4
	５歳児入園	2	2					1						
	４歳児入園	2	2					1	1					
	３歳児入園	18	63		1							1	1	
	満３歳児入園		2	4	11	7	4	4	2	3	5	4	6	4
	前年度満３歳児入園	45												
	計	67	201	204	216	223	226	232	235	238	241	246	252	252

		新入園児数	4/1	4月	5/1
2021年度	在園児数		134	202	205
	退園児数			-1	
	５歳児入園				
	４歳児入園	2	2		1
	３歳児入園	12	66		
	満３歳児入園			4	
	前年度満３歳児入園	54			
	計	68	202	205	206

2　はじめに

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染対策の為に永年取り組んで来た行事の実施方法について見直し、観覧の人数や時間を制限しながら行うこととなりましたが、喫食を伴う行事は中止とせざるを得ませんでした。今年度の重点目標である「主体的で対話的な深い学び」の達成の為に、保育を計画しSOAPサイクルにて実践して参りました。

大変な一年でありましたが、就学に胸弾ませ卒園していった子どもの姿は例年の様子と変わらず、この事は何にも代え難い喜びでありました。

3　令和２年度の重点的な取り組み

（１）保育

①　モンテッソーリ教育による個別活動の充実を図る。

②　「主体的で対話的な深い学び」への挑戦

③　チーム保育によって職員の相互教育を図る。

①　モンテッソーリ教育の個別活動の充実を図る。

経緯：モンテッソーリ教育では、個々人の子どもの活動を尊重している。その為、登園後、順次個別活動を行ってきました。

課題：登園時間が 8 時 20 分から 9 時 30 分と約 1 時間の開きがあり、横割りによる一斉活動が午前中に組込まれ、個別活動を充分に取り組む環境に個人差が生じておりました。

改善：登園後、戸外遊びとし、朝の出席確認後から午前中をモンテッソーリ教具による個別活動の時間としました。横割り一斉活動は、午後へ移行して行いました。

成果：長時間必要とする教具活動を選択する子どもが増えました。また、次の活動を選ぶ姿や、机や絨毯等の限られた中で、お友達と譲り合う、誘い合う、教え合う姿を教師が観察することが出来るようになりました。

その他：保育時間の流れを変更した事によって、夏場は高温状態となる前に戸外活動が出来るようになり、冬場は寒い中でも一度は戸外で体を動かす等、熱中症のリスクからの回避や、寒さに負けない強い体づくりと健康への自己管理の習慣を身に付ける等、保育の質を高める事へ繋げることが出来ました。

②　「主体的で対話的な深い学び」への挑戦

経緯：新教育要領の指針「幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿」を踏まえ「主体的で対話的な深い学び」となる内容を当園においても試みることといたしました。

課題：2 学期末に毎年年長児全員で取り組む聖劇を 4 クラスずつの 2 グループに分け、台本から子どもたち自身で取り組む事について保護者への説明が適切に出来ませんでした。また、模倣する経験が多かったため、表現する事を躊躇する姿が多々見られました。

改善：例年の聖劇の練習では職員から訂正される機会が多くありました。今回は練習を重ねる度に自分で考えたり、お友達と一緒に作り上げる楽しさを味わう機会を増やす事に繋がっていました。

成果：評価としましては、例年の聖劇と比べ内容が短く、舞台のセットも子どものアイディアによる手作りの為、見栄えはしませんでした。保護者の中には例年の劇ではなかったことに残念とのお声もいただきました。一方で、練習過程を楽しそうに話す姿や劇中にお友達とコンタクトを取りながら演じた子どもたちを評価して下さるお声もいただきました。成果としましては、子ども自身が自分の与えられた役に対してどのように演じようか工夫する姿や、自分のことだけではなくお友達を励ますなどの協調性が大きく育っていました。

③　チーム保育によって職員の相互教育を図る。

経緯：永年、各クラスに担任と副担任の 2 人組での職員配置としていました。新規採用職員は相談する先生が担任だけとなりやすい環境でした。

課題：新規採用職員が園職員として馴染むために多くの職員と繋がる環境整備を要して

おりました。

改善：副担任を 2 クラスで 1 名とすることで、隣同士のクラス担任の話し合いが必須となる環境をつくり、そこへ副担任職員が入ることで話し合いやすい環境を生み出す事が出来ました。

成果：チーム保育をすることで職員同士が相談する姿や、気づいたことに言葉を掛けるなど協調性が以前にも増して見られるようになりました。

（２）預かり保育

夏季・冬季・春季の長期休暇期間中は、70 名近くの子どもたちが利用していました。安全で楽しく過ごせるように 2 クラスに分かれ、各クラス職員 2 名体制で行いました。19 時近くのお迎えが続く保護者へは丁寧に説明を重ね、出来る限り延長が続かないように依頼し改善の傾向にあります。また、当日にお迎えが遅くなることが分かった時点で連絡を下さる様子などから以前と比べお子様のことを気に掛けてくださっていることを感じるようになりました。

４　園児募集活動

（１）入園説明会・体験会

◇説明会

日時：9 月 12 日（土）入園説明会　参加者：保護者のみ

内容：沿革・教育理念・入園にあたっての経費の説明・モンテッソーリ教育について等日常の園の動画等を視聴していただきながらの説明会とする。

参加者の情報入手手段				
	ウェブ	知人の紹介	アンジェリーナクラス	新聞広告
人数	１３	４	２	１
％	６２	２０	１０	５

参加者は新型コロナウイルス感染症の感染防止の為 30 名までと制限。当日は 25 名（3 名が学生）の申し込みがあり当日全員が出席。アンケート回答:22 名中 21 名

◇体験会

日時：10 月 3 日（土）体験会　　参加者：対象児とその保護者

内容：来園されるお子様に合わせた教具を 5 種類、準備し 30 分自由に活動していただく。参加申し込み 20 組（全員入園説明会参加者）に対してコロナウイルス感染症の感染対策も兼ね、一クラスに 2～3 組の親子と関わりました。担当に入った職員は、お子様の様子やお子様と関わる保護者様の様子を観る事が出来、保護者と直接時間をとってお話をする機会にもなりました。入園説明会や体験会に気軽に参加していただきその機会を入園へ繋がるよう活かしていきたいと思います。

（２）親子教室

◇アンジェリーナクラス（親子教室）・・・毎週（火・木）

初回のみ入会手続き 500 円をいただき次回より無料。9：30～11：00　定員 15 組の予約制で実施しました。新型コロナウイルス感染症の第 3 波となった 3 学期は定員 7 組に制限し行いました。新規来園者獲得の為に変更した結果、アンジェリーナクラスからのつぼみ 1・2 コースや、直接満 3 歳児として入園者に繋げることが出来ました。

◇モンテッソーリわくわくランド（親子参加型イベント）

新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど開催を中止せざるを得ませんでした。その中でも園説明会直前に開催した 8 月のエンジェルフェスタは実施することが出来ました。つぼみ組の親子と参加者親子様が一緒に楽しい時間を過ごし園の雰囲気を知っていただく機会となりました。

今年度は開催日毎にイベント内容を明確に打ち出し事前予約制とすることで事前に参加人数を把握する事が出来、効率良く行うことが出来るようになりました。傾向としてお父様の参加やお子様の低年齢化が見られ早期から良い園探しをなさる保護者様が増えていることを感じました。わくわくランドを通して、親子で個別活動に親しめるアンジェリーナクラスを無料としリピーターの増加、そして入園へ繋がりやすい環境へ移行することが出来ました。今後は、わくわくランド経験者をアンジェリーナクラスへと繋がるように工夫をしていきたいです。

5　その他

（1）卒園児との繋がり：土曜学校（9 時半～11 時随時お迎え）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の為に 2 学期に 4 回のみの実施となりました。6 学年が同じ活動を楽しめる内容を検討することは大変ですが、卒園した子ども達が、慣れ親しんだ教具に囲まれる一時を過ごすことで、自信を取り戻す場所・時として今後も取り組んで参ります。

また、中学校との連携を強め、体験会などの情報を常時発信していきたいです。

（2）研修について

外部研修は、新型コロナウイルスの感染拡大が一時落ち着いていた時期に新任向けの研修に参加することが出来ました。

その他の研修としては園内において、モンテッソーリ教具の研修に力を入れました。この研修は週に 1 回のペースで実施し習慣化することが出来ました。この研修を通して先輩職員と新任職員間のコニュミケーションを深める機会ともなり、協同作業の円滑化やコロナ関連による欠員状況となった場合においても積極的に補い合う職場環境となっておりました。

また、今年度より園医となっていただいた小児科医の先生による研修（ワクチン接種の有効性、特に B 型肝炎について）を実施し、ワクチン接種をすることで未然に病気を防ぐことができ、それは幼い命を守る行動に繋がっていることを認識する機会となりました。3 学期に入ると zoom での研修会が増え、より参加しやすくなりました。福岡県私学振興課主催の同和教育研修では、「どのような保育の価値観を持っているか」というテーマにおいて講師の体験から当園は在籍していただいている保護者それぞれの立場に丁寧に対応した保育であったかを振り返る良い機会を得る研修でありました。

6　まとめ

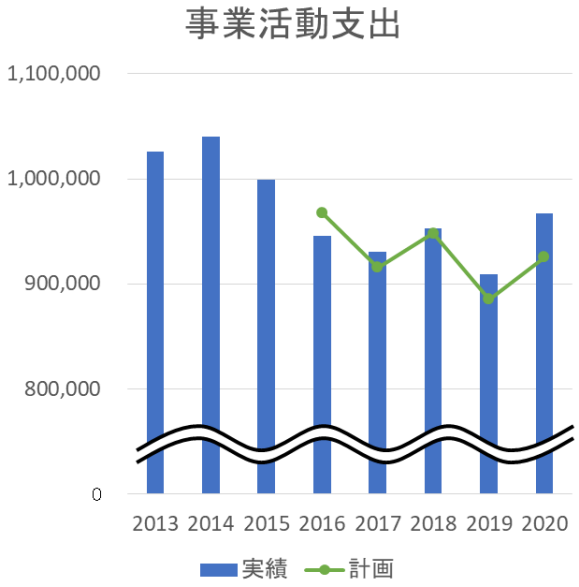
令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防の対策の為の変更が多くあった年度となりました。当年度より保護者による保育評価アンケートの実施を計画しておりました。今回は、その中にコロナ関連の園対応に対しても評価をしていただき、園からの説明が不明瞭であったとのご返答が目立つ結果でした。変更するにあたり、多方面からの状況を鑑み説明を行うことに徹して参りたいです。

２　中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

当学院は 2016（平成 28）年 9 月 20 日に「学校法人久留米信愛女学院　経営改善計画　2016（平成 28）年度～2020（平成 32）年度（5 カ年）」を策定し、同計画に基づいて経営改善を進めてきました。同計画では、教育・研究活動を永続させるための経営基盤の強化のため、2019（平成 31）年度に収支差額の黒字化、2020（令和 2）年度に日本私立学校振興・共済事業団が示す「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」が A3 相当となることを目標に設定しました。

前年度の 2019 年度に基本金組入前当年度収支差額及び経常収支差額の黒字化を達成して迎えた当年度は、教育活動資金収支差額（活動区分資金収支計算書）が 3 年連続黒字となり、経常収支差額（事業活動収支計算書）も 2 年連続黒字となりました。したがって、「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」は、計画初年度の 2016 年度の B3（14 段階中 7 番目、イエローゾーン）から A3（同 3 番目、正常状態）となり、目標を達成しました。

短期大学ビジネスキャリア学科の募集停止・廃止や「信愛ひらくプロジェクト」に基づく男女共学化等の取り組みにより、計画期間中を通じて事業活動収入は目標値を超えて推移しました。事業活動支出は、人件費の見直しや各種経費の削減により減額は達成したものの、目標値を達成できたのは計画初年度のみであったため、支出額のコントロールは今後に残された課題となりました。



2020 年度は経営改善計画の最終年度となる予定でしたが、計画を 1 年延長することとしました。久留米信愛短期大学は 2022（令和 4）年度以降の学生募集を停止しましたので、2023（令和 5）年 3 月の短期大学閉校後の新たな学院の方向性も含めて中期計画を策定し、2022 年度から実行してまいります。